

一般社団法人日本小児看護学会
2015年度 第1回定期社員総会（評議員会）議事録

日時：2015年6月14日(日) 13:30～15:50

場所：東京女子医科大学看護学部 河田町キャンパス 123 講義室

理事：二宮啓子、日沼千尋、橋木野裕美、内正子、奈良間美保、武田淳子、飯村直子、平林優子、中野綾美、江本リナ、中村由美子

監事：草場ヒフミ、中村慶子

評議員出席者：浅野みどり、市江和子、市原真穂、遠藤芳子、大西文子、岡田洋子、小川純子、長田暁子、川口千鶴、川名るり、児玉千代子、杉浦太一、添田啓子、高野政子、高橋泉、田村恵美、友田尋子、中村伸枝、仁尾かおり、萩原綾子、濱田裕子、平田美佳、法橋尚宏、益守かづき、三宅一代、薬師神裕子、渡邊輝子（五十音順）

出席社員数：50名（会場40名、委任状10名）

【開会】

出席者数の確認

司会の日沼理事より、13:30に開会が宣言され、出席者の確認があった。一般社団法人日本小児看護学会評議員数50名（2015年6月14日現在）のうち、会場出席者40名、委任状による出席10名であり、定款第27条2項により、評議員の過半数の出席を満たしていることから、社員総会が成立した。

理事長挨拶

今期は、任意団体から一般社団法人への移行に伴う体制整備と低コストで活発な学会活動を行うことを目標に行ってきました。今回、経費削減を考慮し、社員総会を東京で開催するにあたり、日沼副理事長にご尽力いただきいたことに感謝申し上げる。

経費削減の一方で、学会活動の活発化に伴う支出、消費税の引き上げや法人税である租税公課の支払いが必要になり、今年度より会費を8,000円から10,000円に値上げした。学会活動としては、社員総会や会員集会での意見を反映させ、研究助成金の使用可能範囲の拡大や研修会の開催、電子投稿の検討を行ってきた。

一方で、小児医療の向上や在宅医療の推進により、子どもと家族、小児看護師を取り巻く環境は日々変化しており、一般社団法人として社会のニーズに対応していくことが求められている。そのため、子どもの健康と福祉に貢献できるように保健医療福祉制度の改革への参画・対応が必要である。本日は、皆さんに2年間の今期役員の活動に対する意見と今後の学会活動についてのご意見をいただきたい。

議事録署名人の承認

定款第29条により、社員総会の議事録署名人として、友田尋子評議員、平田美佳評議員が推薦され、承認された。

【報告事項】

1. 一般社団法人日本小児看護学会 2014年度理事会報告 (p.1)

二宮理事長より報告された。

1) 第1回理事会報告 (2014年5月11日)

資料に基づき、①第24回学術集会、第25回学術集会の進捗状況、②仮入会未納入者への対応、③会費の値上げ、④2014年度選挙管理委員、⑤HP等での情報公開内容、⑥各委員会の報告・審議について、報告された。

2) 第1回書面理事会報告

研究助成の「助成対象者」の条件について、「入会年度を含めて3年以上を経過した者」を削除することについての承認が得られ、決定された。

3) 第2回理事会報告 (2014年7月19日)

資料に基づき、①第24回学術集会の進捗状況、②日本看護系学会協議会総会、③会費滞納者への対応、④会費変更に伴う定款施行細則の改正、⑤各委員会の報告・審議について、報告された。

4) 第2回書面理事会報告

日本小児看護学会誌専任査読者について、次期専任査読者156名の承認が決定された。

5) 第3回理事会報告 (2014年10月26日) (p.2)

資料に基づき、①第24回学術集会報告、②第25回学術集会進捗状況、③各委員会の報告・審議について、報告された。

6) 第4回理事会報告 (2014年12月14日)

資料に基づき、①第25回学術集会の進捗状況、②役員（理事）候補者選挙の公示方法と選挙のスケジュールについて検討・承認、③各委員会からの報告および審議、について報告された。

7) 第5回理事会報告 (2015年3月14日)

資料に基づき、①第25回学術集会の進捗状況、②

役員（理事）選挙結果、③2015年度予算案の検討、④各委員会の2014年度活動報告、2015年度事業計画の検討、について報告された。

2. 2014年度定時社員総会報告（2014年6月21日）

(p.3)

<報告事項>

資料に基づき、①2013年度理事会、臨時社員総会、②会員数、会員異動状況、③2013年度事業、④投稿規定、入会のご案内、入会申込書の変更、について報告された。

<審議事項報告>

資料に基づき、①2013年度決算、会計監査、②2014年度事業計画、③HP等での情報公開内容、学会誌に掲載されている議事録等の削除、④2014年度予算案、⑤年会費の値上げ、⑥2016年度第26回学術集会会長、の審議について報告された。

3. 事務局報告（p.4）

2015年3月31日現在、会員数は1998名、正会員1986名（仮入会74名を含む）、名誉会員7名、賛助会員5名である。会員異動状況は、2014年度入会者は249名、退会者235名（会費滞納による資格喪失者141名を含む）である。地区別・都道府県別の教育関係・医療関係会員数の内訳が報告された。

昨年度0名であった島根県の会員数が4名になったことで、47都道府県すべての都道府県に会員がいる。教育関係やその他の種別会員が増えている。

4. 事業報告

1) 社員総会、理事会、会員集会報告（p.5）

社員総会は2014年6月に行われた。理事会は5回、書面理事会は2回行われた。会員集会は、2014年7月に学術集会にて行われた。

2) 学術集会報告（p.5）

2014年7月20日、21日、タワーホール船堀にて、東京女子医科大学看護学部 日沼千尋氏を会長に、メインテーマ「とどけよう！小児看護の知と技とこころ－培ってきたものをすべての子どもと仲間に－」として開催された。参加人数は1811名。

3) 総務委員会報告（p.5）

資料に基づき、①社員総会、会員総会、理事会の運営、②総務委員会の開催、③学会の運営、④法人化後の体制整備を行ったことが報告された。

4) 編集委員会報告（p.5）

資料に基づき、①学会誌の発行、②専任査読者委嘱の手続き、任期の変更（3年から4年）③学会誌掲載論文の電子化と公開、④学会誌、学術集会講演集の掲載論文の転載許諾、⑤学会誌の在庫の処分について報

告された。

5) 広報委員会報告（p.6）

①ニュースレターの編集・発行

2014年11月に45号を、2015年3月に46号をそれぞれ学会誌とともに発送した。

②学会ホームページおよび会員専用SNSの管理

法人化したことにより定款と定款施行細則は記載してあったが、それに加え社員総会ページを追加して総会議事録、収支決算、貸借対照表、財産目録、評議員一覧を掲載した。ホームページに関しては、随時追加更新をしている。会員専用SNSに関しては、登録者数は微増で、新規に学会に入会される方の入会申込書にSNS招待状メール送信先記入欄を設け、そこに記入されたメールアドレスに学会事務局の方から招待メールを送るようにしている。

③学会紹介用リーフレットの活用

関係学会や学術集会、研修会等で配布し、広報に努めた。英語版リーフレットを作成し、7月の学会誌と一緒に発送する予定。

6) 学術・研究推進委員会報告（p.7）

①研究奨励賞事業

第6回（2014年度）日本小児看護学会研究奨励賞論文の選考を行い、選考の結果、理事会の承認を得て、下記の1編が受賞論文と決定した。下野純平（2013）：在宅重症心身障害児の父親が父親役割を遂行するための調整過程、日本小児看護学会誌22(2)、1-8。

②研究助成事業

第5回（2015年度）研究助成の公募を行った。また、研究助成の公募要領、交付申請書、交付申請書記載要項、助成用Q&Aを修正した。選考の結果、1件を研究助成の対象に決定し、数回の修正と確認を経て、2015年度の「研究助成事業」に該当する研究として理事会に諮ることになった。

③日本小児看護学会学術集会運営支援事業

日本小児看護学会第24回学術集会運営の支援を実施した。「家族とのコミュニケーション力を育てよう！」というテーマにおいて、エキスパートパネルを開催した。

7) 教育委員会報告（p.8）

以下について、資料に基づき報告された。

①地方会開催

2014年9月13日に東北地区（山形）で開催した。山形大学医学部看護学科 佐藤幸子氏を代表者として運営され、67名の参加者で行われた。

②2015年度地方会代表者の決定・企画支援

2015年10月31（土）開催予定である。

③エキスパートパネル、交流会の開催・企画

第24回学術集会で子どもの緩和ケアにおける看護実践方法と小児在宅ケアをテーマに2題のエキスパー

トパネルを開催した。2015年第25回学術集会においても2つの企画を行っている。

④医療的ケア研修セミナーの共催企画

2014年度は富山で行なわれた日本小児神経学会の医療的ケア研修セミナーの共催として参加をした。

⑤研修会の開催

2014年度は2回研修会を開催した。2014年10月11日に小児看護の質の向上の研修会として、施設から在宅への移行支援をテーマに開催し、参加者98名と講義、グループワークを実施した。さらに長時間の研修への要望が出された。2015年2月7日(土)に基づき教育および継続教育の課題をテーマに参加人数51名で、講師の講義の後、グループワークを実施した。昨年、今年と小児看護の人材育成についてのガイドラインへの要望があったため、次の活動の課題とした。

8) 倫理委員会報告 (p.8)

①第24回学術集会での企画・運営

全委員にて、日本小児看護学会第24回学術集会でテーマセッションを企画・開催し、活発な討議が行われた。

②啓発活動

学術集会の際に倫理委員会の活動パネルを制作し、啓発活動を行った。また「子どもを対象とした看護研究に取り組む際に直面する倫理的課題の実態調査」を実施した。

③「子どもを対象とする看護研究に関する倫理指針(案)」の作成をした。

④第25回学術集会での企画

テーマセッション「考えよう！脳死下臓器移植をめぐる看護～子どもと家族のアドボケーターになるために」についての検討・企画をしている。

⑤臓器移植関連学会協議会の加入学会としての活動

臓器移植関連学会協議会に参加し、動向を把握した。「臓器移植システム委員会に関する提言」「臓器提供施設体制整備委員会からの提言」の検討の際に、本学会からの意見を提出した。

9) 小児看護政策委員会報告 (p.10)

①「健やか親子21推進協議会」課題3の幹事団体としての活動

健やか親子21の課題3の幹事団体として、(第14回健やか親子21推進協議会)総会に参加し、最終評価等に関する検討会の傍聴を行い、動向を把握した。14年間の活動実績を提出した。第24回学術集会でのテーマセッション実施し、「保護者への心肺蘇生法の周知」に取り組んだ。

②「健やか親子21」の活動 第2次に向けた活動

2014年度で終了する「健やか親子21」の次期計画(「健やか親子21(第2次)」)における学会の立場を検討し、推進協議会として引き続き関わっていくこと

を決定した。

「健やか親子21(第2次)」の更なる推進に向けた意向表明、活動テーマを意向表明し、動向と学会の立場について、学会ホームページに掲載した。

③「特定行為に係る看護師の指定研修制度」について

法案成立後の動向を把握しながら、日本小児看護学会の立場を検討していく。「特定行為に係る看護師の研修制度の動向と学会の立場」について学会ホームページに掲載予定。

④「成育基本法」について

成立に向けた動向を把握しながら、日本小児看護学会の立場を検討した。現在は実現の見通しが立っていない法案のため、傍観し情報収集に努めている。

⑤厚生科研分担研究「患者・家族に対する支援体制の構築に関する研究」について

学会の代表として会議に出席している。モデル案が作成されている状況であるため、理事・委員・評議員に呼びかけ、意見を募集し取りまとめた。

10) 診療報酬検討委員会報告 (p.10)

資料に基づき以下が報告された。

前提になることとして、診療報酬の改定に向けた活動の中心は学会になるため、内科系の医師の学会の団体では内保連、外科系の医師の学会では外保連、看護系の学会では看保連が窓口になる。

偶数年ごとに診療報酬の改定があるので、それに向けてその前2年間ぐらいを、このような診療報酬を改定すると看護が改善し、現場が良くなるということで、交渉の材料としてのエビデンスを準備し続ける。

①平成28年度診療報酬改定に向けたニーズ把握調査の実施

看保連の研究助成金を得て、診療報酬の要望の根拠となる診療報酬上の課題や現場のニーズ把握のための調査を実施した。今後、報告書を提出予定である。多くの課題が見出され、結果は日本小児看護学会第25回学術集会において、報告予定である。

②調査計画(虐待対応)

院内における被虐待児への対応に関する人員と対応時間の実態を把握するために、26年度に引き続き約50万円の助成金を獲得した。

11) 国際交流委員会報告 (p.11)

①国際学会の紹介

2014年度に開催される国際学会の紹介を行った。

②リーフレットの作成

リーフレットの英語版を作成し、平成27年度の7月に配布予定である。

③ホームページの学会成果物の英語版の作成

平成27年度にホームページに学会成果物の英語版を作成して掲載予定。

④APPNA

The Asia Pacific Paediatric Nursing Conference 2014(26-28 September 2014)への参加と日本からの参加者への対応を実施した。日本からの参加者は 24 名であり、病院見学ツアーを企画し、15 名が参加した。委員は、ポスタープレゼンテーションの審査を行った。

⑤助成金への応募

来年度の国際シンポジウム開催に向けての国際交流基金の助成金に応募したが、助成金はもらえなかった。今後も応募していく。

12) 災害対策委員会報告 (p.12)

資料に基づき以下について報告された。

①教育推進活動：災害に関する啓発のための研修会

災害に関する意識向上のために、今年度は、九州地区(佐賀)および甲信越・北陸・東海地区(新潟)の 2 か所において研修会を開催した。平成 26 年 10 月 11 日(佐賀)のテーマを、「備え続けるために子どもを守るために看護職がすべきこと」、平成 26 年 12 月 7 日(新潟)のテーマを「災害から学び、経験を生かし合う—医療機関における災害対策」として実施した。

②マニュアルによる各地区的ネットワーク作り

マニュアルの再検討を行い迅速に情報共有ができるように各地区におけるネットワーク構築を試みて、評議員のいない府県もあるが、まずは 1 回実施し、その結果を踏まえて漸次充実させていくようにした。

③第 24 回学術集会でのテーマセッション・ブース展示と助成金相談

平成 26 年 7 月 20 日に「私にもできる災害の中長期的支援」のテーマで開催した。セッション後に支援金募集の相談ブースを設け個別な相談を受けた。

④助成金支援事業の募集

継続的に募集をしており、1 件の申請があった。ニュースレターにも掲載して募集を行った。

⑤ホームページ等の充実・更新、広報活動

研修会の佐賀と新潟の研修会の案内を HP のトップページに掲載した。

⑥関連団体との連携

東日本大震災中央子ども支援センター協議会の加盟団体として参加しているが、2014 年度は関係機関等との連携は特になかった。

質疑応答

なし。

【審議事項】

1. 2015 年度～2016 年度理事選挙報告 (p.13)

資料に基づいて、篠木選挙管理委員長より報告された。開票の結果、理事には浅野みどり、飯村直子、江本リナ、武田淳子、中野綾美、中村由美子、奈良間美保、二宮啓子、日沼千尋、平林優子氏が決定した。任

期は平成 27 年度社員総会から平成 29 年度社員総会までである。全員の賛成により、本件案は可決された。

新理事が別室に移動し、新理事による協議が行われた後、新理事長、新副理事長が推薦された。

新理事長に武田淳子氏、副理事長に日沼千尋氏が推薦され、挙手により可決し、承認された。また、指名理事に宮城大学看護学部の遠藤芳子氏、山形大学医学部看護学科の佐藤幸子氏が推薦され、全員の挙手により承認された。

2. 2014 年度決算

資料に基づいて樋木野理事より報告された。

1) 収入の部 (p.14)

本年度は学術集会による収入が多かった。本年度の会費収入合計は 14,973,000 円、予算案との差額は 2,353,000 円となった。収入合計は 71,872,425 円となっている。

2) 支出の部 (p.14)

本年度の支出合計は 35,396,560 円、予算残額は 1,916,883 円となった。会費収入、学術集会の収入が大きく、黒字となった。

3) 平成 26 年度貸借対照表 (p.15)

年度末現在でのすべての資産と負債についての状態を詳細に示している。

4) 財産目録 (p.16)

年度末現在でのすべての資産と負債についての名称などを詳細に示している。正味財産は、36,786,667 円となっている。

3. 会計監査 (p.17)

草場監事、中村監事にて、2015 年 5 月 1 日会計担当と税理士同席の元、新大阪の会場にて、2014 年度の会計監査を行い、特に問題ないことが報告された。

審議を経て、2014 年度決算、会計監査は過半数の賛成が認められたため可決された。

4. 2014 年度事業計画案

資料に基づき各委員長より報告された。

社員総会：1 回 6 月 14 日、会員集会：1 回 7 月 25 日、理事会：5 回開催予定

1) 第 25 回学術集会 (p.18)

2015 年 7 月に開催予定。

2) 学会誌発行・編集 (p.18)

24 卷 2 号、3 号、25 卷 1 号の編集・発行を予定している。

①学会誌掲載論文の電子化と公開、電子図書館 (NII-ELS) の事業終了に伴う対応

電子図書館の事業終了に伴い、JST が取り行っている。

る新しいシステムへ移行になる予定である。

②学会誌、及び学術集会講演集の掲載論文の転載許諾の対応を引き続き行う。

③投稿規程、査読ガイドラインの見直し

投稿規定は電子投稿システム化に伴い内容を変更する必要がある。理事会で検討しており今後ホームページへ掲載予定である。

④学会誌の電子投稿システム導入の対応

システム導入に向けて検討し、見込みとしては8月第三金曜日に締め切る。25巻1号の掲載に向けての論文の受付から電子投稿で行うよう一括して切り替える予定である。

3) 広報 (p.18)

①ニュースレターの編集・発行 (年2回)

47号を11月、48号を2016年の3月に発行予定である。学会誌と同送になる。

②ホームページの管理・更新

引き続き、見やすいホームページを心がけ、特に英語版の更新充実を課題に取り組んでいく。

③会員専用SNSの管理・活性化対策の検討・実施

活性化対策が十分でないため、引き続き検討実施する。

4) 学術・研究推進 (p.18)

①研究奨励賞事業

第7回(2015年度)「日本小児看護学会研究奨励賞」対象論文の選考を行う。

②研究助成事業

第6回(2016年度)研究助成を公募し、応募の中から2件まで選考する。研究助成の応募が伸びないため、工夫していく。

③エキスパートパネルの開催

日本小児看護学会第25回学術集会において、エキスパートパネルを開催する。「考えられる看護師を育成する!」をテーマに開催予定である。

5) 小児看護に関する教育 (p.18)

①2015年度地方会(甲信地区)との連携・2016年度開催についての計画

今年度は「子どもの医療を巡る倫理コンサルテーション」がテーマである。倫理コンサルテーションについて権威のある方をお呼びして、開催する山梨県の病院から事例で検討を行う。また、2016年度の開催についても計画していく。

②小児看護実践の質向上のための企画・運営

(1) エキスパートパネルの開催

「子どもの苦痛緩和について考え方第2弾—苦痛緩和への子どもと家族の参加を目指してー」と「小児看護在宅ケアー地域連携と他職種連携にどう取り組むかー」の2題を、学術集会1日目に開催予定である。

(2) 医療的セミナーの共催(2015年8月30日、於:

米子)

詳細は日本小児神経学会のホームページに掲載されているので、ぜひ申込みをお願いしたい。

(3) 子どもの在宅移行の研修会

時間拡大版を計画予定である。

③小児看護学の基礎教育から新人期の教育ガイドライン作成(準備・検討会)

ワーキンググループを作り準備から始める予定である。

6) 小児看護に関する倫理検討 (p.18)

①テーマセッションの開催・啓発活動

第25回学術集会において、テーマセッション「考え方よ!脳死下臓器移植をめぐる看護~子どもと家族のアドボケーターになるために」を開催する。合わせて、倫理委員会活動紹介をパネルに展示し啓発活動を行う。

②看護研究に関する倫理の啓発活動

「子どもを対象とする看護研究に関する倫理指針」をホームページで掲載するとともに、冊子を作成し、啓発活動を行う。

③小児看護の倫理的課題に関する活動

新規委員会で小児看護の倫理的課題を検討し、重要課題を検討し活動していきたい。

7) 小児看護政策に関する検討 (p.19)

①小児看護の重要課題に対する政策提言を検討
特に社会や医療の動向から考えていく。

②「健やか親子21(第2次)」としての活動と学会員への周知

③「特定行為に係る看護師の指定研修制度」を注視

8) 小児看護関連診療報酬検討 (p.19)

①平成28年度、30年度診療報酬改定に向けて

平成30年度は介護報酬との同時改定であることを見野に入れ、ニーズ調査の分析の継続、児童虐待院内対応に関する調査を行い、エビデンスを蓄積する。また、要望書等を作成し、各関連団体と連携を図りながら活動する。

②学会員への診療報酬に関する情報提供または啓発活動

第25回学術集会で「NICUを退院したはなちゃんの1年後」のテーマセッションの開催を行う予定。

9) 国際交流 (p.19)

①国際学会の紹介について

例年同様に行っていく。

②学会成果物・リーフレット英訳版について

昨年度から引き続き、考えたものをホームページに掲載し配布する予定。

③国際シンポジウムの開催

外部資金獲得が厳しいため規模を狭め、第25回学術集会でアジア小児看護師協会会长のスザンナ先生を

お呼びし、国際交流セミナーを開催する予定である。

④2014年度香港病院見学ツアーレポート

ニュースレターに掲載予定である。

⑤APPNAにおける病院見学ツアーレポート

2016年1月に行われるAPPNAに合わせ、インドの病院の見学ができるように申し出をしている。

⑥日本の小児看護の紹介

海外の学会に行く際には一報いただき、DVDと英訳リーフレットを持参し周知してもらいたい。

10) 災害対策 (p.19)

①各地区の災害ネットワークづくり

シミュレーションの実施によるネットワークの充実を図る。

②教育推進活動

災害に関する意識向上のための研修会を近畿地区で開催予定。

③子どもに関連する災害資料の収集を追加充実させてホームページ上で情報提供を行う

④広報

学術集会におけるテーマセッション、研修会、ホームページ等により、会員等へ災害支援に関する情報や委員会活動についての広報を行う。

⑤災害助成金の活用推進

東日本大震災における子どもや家族への支援に助成金が有効活用されるよう応募者の増加を推進する。

⑥東日本大震災関連事業の継続

中央子ども支援センター等の関連団体との連携を行う。

以上、2015年度事業計画案について審議が行われ、過半数以上の賛成が認められ可決された。

5. 2015年度予算案

橋木野理事より、資料 (p.20) に沿って提案された。

2014年度の収支決算の実績をもとに予算案を立てた。

1) 収入の部

①会費

前年度より増額している。会費の値上げと前受け分も多いということを見込んでの案である。

②雑収入

例年70万円前後が多く、70万円を計上した。

③学術集会収入

④研修会参加費

教育委員会と災害対策委員会で研修を予定されている。参加費を徴収するため、参加費としての収入を見込んでいる。

⑤寄付金

診療報酬検討委員会が看保連の助成金を獲得しており50万円の計上とした。

⑥その他

受け取り利息が6千円である。

以上、当期収入合計は36,038,470円の見込である。

2) 支出の部

①会員集会費

②会議費 (社員総会)

理事会費5回分と社員総会。社員総会では特に交通費が掛かっている。

③事業費

事業費は、委員会の事業毎に内訳を示しており、備考欄は資料参照。

・【編集】学会誌編集・発行

電子システムの導入が予定にあり、増額。

・事業費 (【選挙管理】)

今年度選挙はないが、一応5千円の計上をしている。

④事務費

・庶務費

・会計経費

・事務業務委託

・移転費

今回移転があるため、59万4400円を計上している。移転に伴い、登記簿手続きのために費用がかかる。

・租税公課

2014年度の法人税がかかってくる。課税の対象になったのは学会の雑収入の分の金額、学術集会での企業展示の出展料の収入、非会員が購入したプログラム抄録集の収入、会場費の収入である。これらの収益から経費を引いた額が所得となる。所得に対し、所得税、法人事業税、法人都民税がかかる。

・雑費

⑤予備費

以上、当期支出合計は38,003,321円で、赤字予算案となっている。学会員の会費の納入状況を考慮し厳しく予算立てをした。

審議

理事会報告で予算削減の方向で再検討したとあったが、会費が値上げされ収入が増えている段階において、学会の収支についてどう考えているのかとの質問があり、会議費や交通費は削減し赤字にならないよう努めましたが、理事の交代もあり予算としては赤字予算になってしまったこと、活動も計画は立てているが、追加等を考え多めに予算化していること、会員会費など確実に収入としてもらえるところで考えると赤字にはなっていることが説明された。また、お金の経緯はわかるが、正味財産が3500万円に関してこれからも資産を拡大していくと考えるのか、現状維持と考えているのかについて方針を聞きたいとの質問があり、会員数から考えて、不測の事態に備えて、1年間の事業費は確実に

もっていないといけないと聞いたことがあること、安全に運営していくためには毎年使うものと記念事業等で使用するものの資金も蓄積していかないといけないこと、1年間の事業費や記念事業費を確保するとなると5000万円～8000万円が必要になるのではないかと考えていることが話された。

以上について審議を経て、過半数以上の賛成が認められ、本件案は可決された。

6. 名誉会員の承認（P.21）

定款第9条に基づき、理事会より名誉会員として、川出富貴子氏、山本匡子氏が推薦された。

過半数以上の賛成が認められたため、本件案は可決された。

7. 2017年度第27回学術集会会長、副会長の承認

本学会員の増加により学術集会の規模が増大しているため、臨床の方に学術集会会長を受けていただく場合の負担を考慮し第27回学術集会より学術集会副会長を設けることとなった。

第27回学術集会会長として、京都府立医科大学附属病院看護部長の小城智圭子氏が推薦された。第27回学術集会副会長として、京都大学の鈴木真知子氏が推薦された。6年ぶりに臨床の方にお引き受けいただいた。

過半数以上の賛成が認められたため、本件案は可決された。

【全体の質疑応答】

定款に学術集会副会長の記載がないが良いのかの質問があり、定款変更に費用がかかることと副会長を必ず置かなければならぬということではないため定款の変更をしていないことが説明された。

2014年度の会費未払い者が800人近くいるが（実際には、前年度に前受け金として納入している者が450名前後いる）それに対する方策はあるのかとの質問があり、会費請求は2回実施している。それ以上は費用も必要である。2年間未払いの場合は除籍しており、理事会でも検討はしていること、毎年学会発表のための入会者が200名前後いるが、6か月以内に会費納入がなければ仮入会が取り消されるという規定を昨年度決めたため、しばらく経緯をみていきたいことが説明された。補足として、本学会員は臨床の方が多いという特徴があり、臨床の方は発表等の機会で入会

するが、その後は会費の支払が継続しないこと、職場の移動があること、会員になるよりも自分の求める研修会にその都度お金を払って参加する方がメリットがあると考えている方が多いことなどにより、入会や、会員継続が困難となっているのではないか、理事会でも何度も討議されてきたとの説明があった。仮入会は会員数に入れないので良いのではないか、また、入会案内のところに正会員にならなければ発表できないということを明確に記載したほうがよいのではないかとの意見があり、今後検討していくことが説明された。

【2016年度 第26回学術集会】

評議員でもある第26回学術集会会長の高野政子氏より資料「一般社団法人日本小児看護学会第26回学術集会（案）」が配布された。現在、九州県内の教員と大分県内の臨床の看護師長、認定看護師、専門看護師に企画委員になってもらい、企画委員会の活動を行っている。地域・在宅医療の支援の問題があり、多職種との連携も大切であると思っているため、今後も企画委員会を通してその詳細を検討していく予定である。また、広報に関してはちらしやホームページ等で行っていく。分からないことも多いため、皆さんのご支援ご尽力をお願いしたいとの挨拶がなされた。

会長：高野政子（大分県立看護科学大学 看護学部）

日時：平成28年7月23日（土）、24日（日）

会場：別府国際コンベンションセンタービーコンプレザ

テーマ：つなぎ活かす小児看護の現在（いま）と未来
-Linkage, Coordination and Development-

【閉会】

これを以て、すべての議題を終了したので、15:50一般社団法人日本小児看護学会2015年度の社員総会が閉会した。

配布資料一覧

- ・一般社団法人日本小児看護学会 2015年度社員総会（評議員会）資料
- ・一般社団法人日本小児看護学会 第26回学術集会（案）チラシ
- ・一般社団法人日本小児看護学会地方会（甲信越地区）チラシ
- ・一般社団法人日本小児看護学会国際国童委員会主催 国際交流セミナー チラシ
- ・「こどもセルフケアカンファレンス」 チラシ

この議事録が正確であることを証するため、議長及び議事録署名人により
以上の議事を認め署名押印する。

2015年 8月 19日

議長

二宮 啓子



印

議事録署名人

平田 美佳



印

議事録署名人

友田 美子



印